



イスラーム過激派：「イスラーム国」が日本人2名の処刑を予告 #3

2015年1月24日深夜、及び27日23時ごろ、湯川遥菜氏、後藤健二氏の誘拐・処刑予告について「イスラーム国」を名乗る新たなメッセージが出回った。前者は湯川氏は既に処刑し、ヨルダンで死刑囚として収監されているサージダ・リーシャーウィーと後藤氏との「捕虜交換」を要求した。後者は、ヨルダン政府に対し24時間以内にリーシャーウィーと後藤氏を交換しなければ、2014年12月にシリアで「イスラーム国」が捕獲したヨルダン軍のパイロットと後藤氏の両名を処刑すると脅迫し、日本政府にはヨルダン政府に最大限圧力をかけるよう要求する内容だった。



画像1：24日に出回った画像



画像2：27日に出回った画像

なお、いずれのメッセージについても、「イスラーム国」傘下のいかなる広報製作部門のロゴが挿入されておらず、厳密には「製作者不明」の状態であるが、日本政府はいずれのメッセージも信憑性は高いと判断している。

評価

24日のメッセージでは捕虜交換の期限が設定されていなかったため、「イスラーム国」が交渉可能、或いは時間をかけた交渉を希望するとの解釈もありえたが、こうした見方は27日のメッセージで24時間以内に捕虜交換が実現しなければヨルダン軍のパイロット、次いで後藤氏の順で人質を殺害するとの条件が出されたため、一挙に消失した。当該のメッセージでは24時間の起点と終点が設定されていないものの、画像が出回った日時を基準とすると日本時間の28日深夜までに何らかの動きが出る可能性が高い。

日本政府、そして捕虜交換の是非の判断と人質の安否の責任を負わされた形のヨルダン政府の両者とも、「イスラーム国」との交渉の糸口や要求を受け入れて捕虜交換を行う余地は非常に小さいとみられる。特に、これまでもイスラーム過激派諸派から様々な脅迫を受けているヨルダンにとって、安易に捕虜交換に応じることは更なる攻撃や脅迫を招きかねない危険な選択である。「イスラーム国」への人員などの送り出しに深く関与しているヨルダン政府に比べ、日本政府は「イスラーム国」との接点や意思疎通の経路が乏しい。また、「イスラーム国」から釈放要求が出たリーシャーウィーの釈放を決定する権限はヨルダン政府にあることから、日本政府として現状で状況打開のためにとりうる手段は限られている。

(イスラーム過激派モニター班)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧ください。URL : <http://www.meij.or.jp/>